

第9回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表

衛星放送事業者を対象とした市場の予測に関するアンケート 将来に期待がうかがえる結果に。

多チャンネル放送研究所(所長:音 好宏)は、第9回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。これは、同研究所が(社)衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しについて調査しているものです。

本調査では、『現状』、『1年後』、『2年後』という3つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを訊ねています。

調査時点が2011年11月で、『1年後』は2012年後半、『2年後』は2013年後半になります。

また、今回の調査では11年10月から始まった新しいBSチャンネルが、多チャンネル放送全体の視聴者数に影響を与えるかについても調査しました。

調査の結果、現状や1年後の衛星放送事業者の加入者数、視聴料金収入についての見通しは、前回調査(2011年6月実施)と同様、楽観的な基調が続く結果になりました。さらに『2年後』に向けては、加入者数、視聴料収入のいずれについても増えていくという期待感も表れています。特に『2年後』の自社チャンネルの加入者数では、約6割が増加傾向と回答しています。

広告や、その他の事業収入については、2年後に向けて改善すると見る傾向があることも明らかになりました。

ただし、今回の調査では、自社チャンネルや多チャンネル放送市場全体の停滞を懸念する事業者も一定数存在し、様々なジャンルや出自のチャンネル事業者によって構成される多チャンネル市場の複雑さも明らかになっています。

多チャンネル放送研究所では、今後も定期的に調査を実施し、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

調 査 結 果 の 概 要

1. 前回同様自社チャンネルの加入者に対しては楽観的な見方が優勢

自社チャンネルの加入者予測の全般的な動向を見ると、『現状』では「増加傾向」(54.8%)が最も多く、それに「横ばい」(28.6%)、「減少」(13.1%)が続く形となった。

『1年後』では「増加」が57.1%、『2年後』では60.7%と更に伸びている一方で、「減少」「大幅減」を合わせて“減少する”という回答は『現状』『1年後』ともに15.5%、『2年後』には14.3%に下がっている。

『1年後』『2年後』と一貫して「増加傾向」が伸び、「減少傾向」は下げていることから、自社チャンネルの加入者動向については概ね楽観的な見方が優勢と言える。

2. 多チャンネル放送全体市場の伸びは「増加傾向」が継続との見方

多チャンネル放送全体については、『現状』では「増加傾向」(48.8%)、「横ばい」(38.1%)、「減少傾向」(7.1%)の順になった。

「増加」「大幅増」を合わせた“増加する”という見方は『現状』で50%、『1年後』には56%、『2年後』には51.2%となる。『1年後』の増加傾向が強まった後、『2年後』では『現状』とほぼ同等の結果に落ちつくが、「増加傾向」が継続していくという見方は変わっていない。

一方で、「減少傾向」は『現状』で7.1%、『1年後』で8.3%、『2年後』には10.7%と、わずかながら拡大しており、悲観的な見方もあることもわかる。

3. 自社の視聴料収入は増加傾向と考える事業者が6割に

視聴料収入に関して、自社のチャンネルの加入者の状況と近い傾向であったものが若干収入に関しては低く見られてきている傾向にある。但し『2年後』には、現状に比べて収入的にも増加傾向と考えている事業者が58.3%と6割に達し現状と比べても14.3ポイント増えている。CATVではマイナス傾向だがDTHとIPTVでプラス傾向で過去の調査結果の内容とは少し変化が出てきている。

4. 広告収入の予測では中期的に現状維持とみる傾向

自社チャンネルの広告収入の予測では、「増加」とみる回答が『現状』では37.3%と最も多く、次いで「横ばい」の31.3%となっているが、『1年後』では「増加」34.9%に対し、「横ばい」が45.8%、『2年後』では「増加」が39.8%に対し、「横ばい」が42.2%と逆転している。

一方、「減少」と見る回答も『現状』18.1%、『1年後』8.4%、『2年後』6.0%と下降しており、中期的には現状維持とみる傾向がうかがえる結果となった。

なお、無回答が『現状』で8.4%、『1年後』『2年後』で9.6%あり、チャンネルの中には広告を実施していないところもあることにも留意されたい。

5. その他事業収入の予測では将来に期待がうかがえる結果に

自社チャンネルのその他事業収入の予測では、「横ばい」とみる回答が『現状』では54.2%と最も多く、次の「増加」30.1%を大きく引き離しているが、『1年後』では「横ばい」44.6%、「増加」42.2%と拮抗し、『2年後』では「横ばい」42.2%に対し「増加」47.0%と逆転しており、将来に関しては期待がうかがえる結果となった。

なお、本項目でも「無回答」が『現状』で7.2%、『1年後』『2年後』で8.4%あることにも留意されたい。

調査の概要について

1. 調査時期 2011 年 11 月
2. 調査対象 衛星放送協会正会員社の CS 有料チャンネル (93 チャンネル)
3. 調査方法 郵送法
4. 回答回収数 84 チャンネル
5. 回答回収率 90.3%

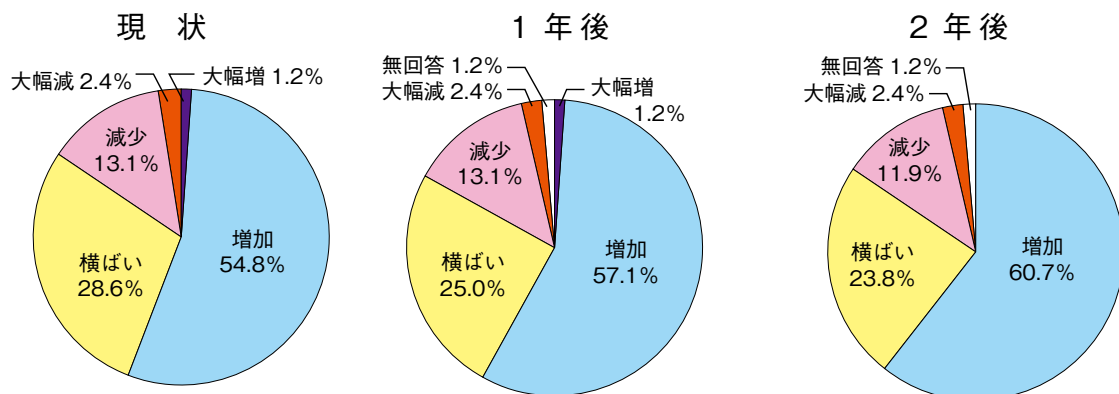
調査結果詳細

1. 自社チャンネルの加入者動向予測

自社チャンネルの加入者予測の全般的な動向を見ると、『現状』では「増加傾向」(54.8%)が最も多く、それに「横ばい」(28.6%)、「減少」(13.1%)が続く形となった。

『1年後』では「増加」が57.1%、『2年後』では60.7%と更に伸びている一方で、「減少」「大幅減」を合わせて“減少する”という回答は『現状』『1年後』ともに15.5%、『2年後』には14.3%に下がっている。

『1年後』『2年後』と一貫して「増加傾向」が伸び、「減少傾向」は下げていることから、自社チャンネルの加入者動向については概ね楽観的な見方が優勢と言える。



2. 自社チャンネルの加入者動向予測推移

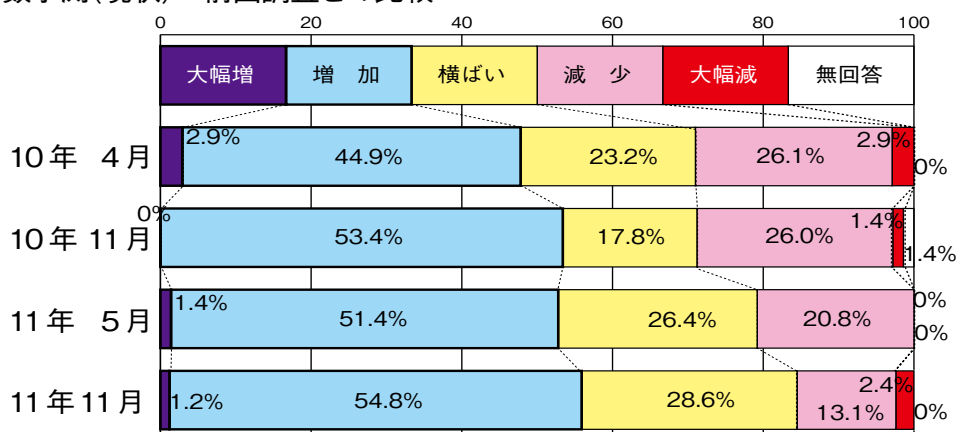
自社チャンネルの加入者動向を、これまでの調査結果と比較した。

前回調査に比べると、『現状』『2年後』では「増加」「大幅増」を合わせて“増加する”という見方がともに増えている。特に『2年後』では、「増加」「大幅増」の合計で5ポイント以上の伸びとなった。『1年後』では前回とあまり変わっていない。

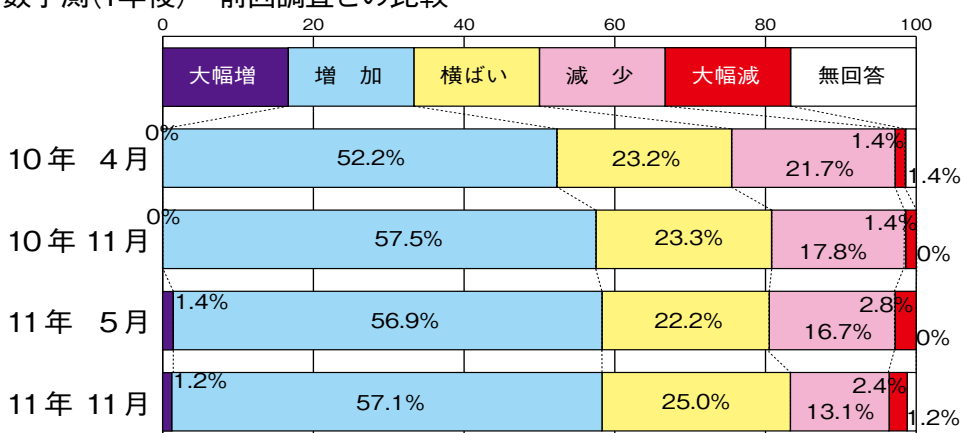
一方、「減少」「大幅減」の“減少する”という見方は『現状』で5.3ポイント、『1年後』で3.9ポイント、『2年後』で3.8ポイントと、いずれも下げている。

「増加傾向」「減少傾向」ともに、前回調査より大きく好転する結果となった。

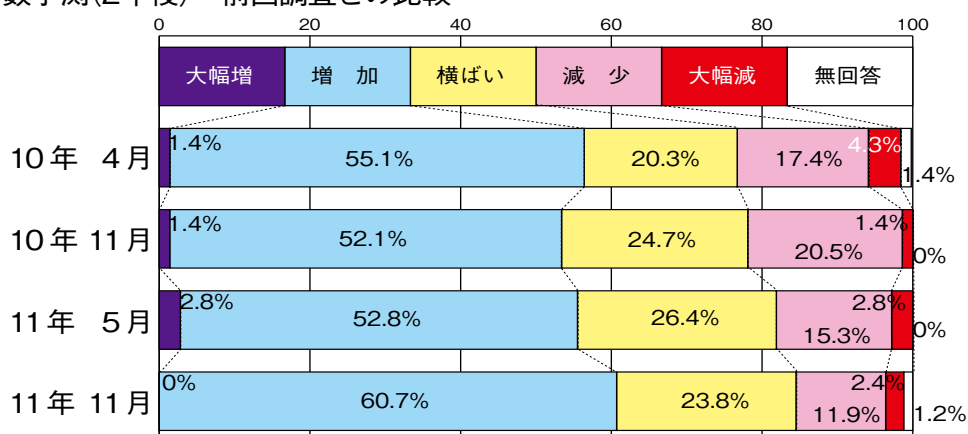
自社加入者数予測(現状)―前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



自社加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



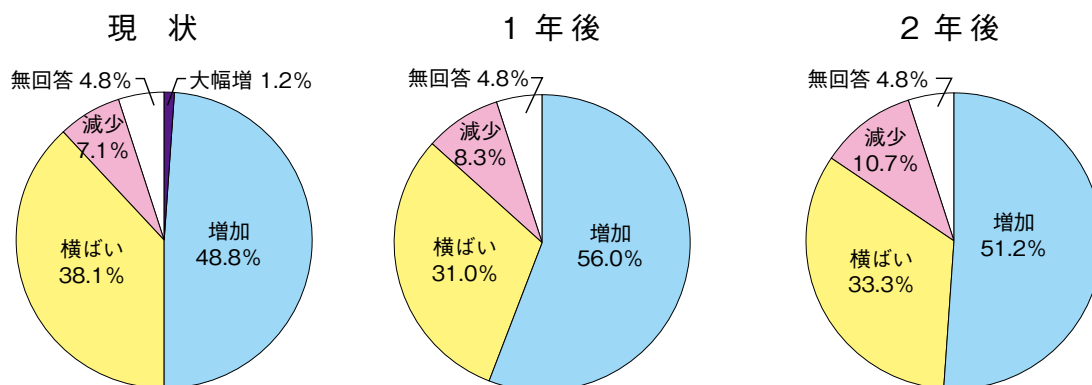
3. 多チャンネル放送全体の加入者動向

次に多チャンネル放送市場全体の加入者予測を各事業者に尋ねた。

多チャンネル放送全体については、『現状』では「増加傾向」(48.8%)、「横ばい」(38.1%)、「減少傾向」(7.1%)の順になった。

「増加」「大幅増」を合わせた“増加する”という見方は『現状』で50%、『1年後』には56%、『2年後』には51.2%となる。『1年後』の増加傾向が強まった後、『2年後』では『現状』とほぼ同等の結果に落ちつくが、「増加傾向」が継続していくという見方は変わっていない。

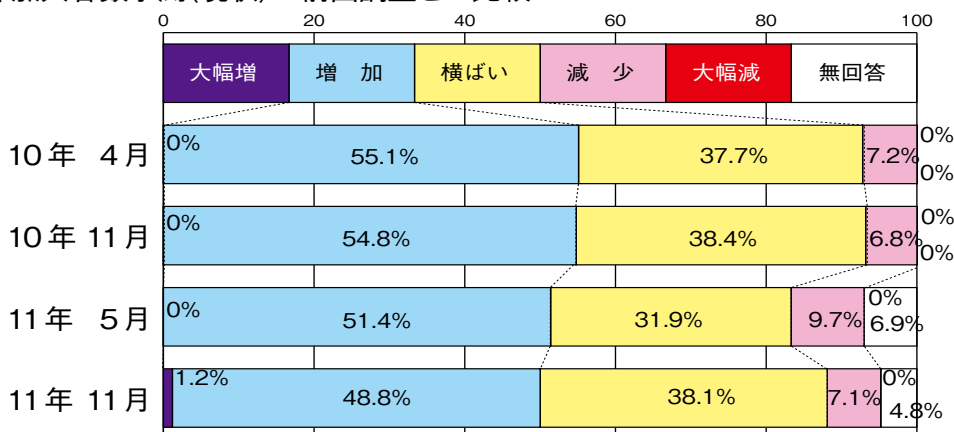
一方で、「減少傾向」は『現状』で7.1%、『1年後』で8.3%、『2年後』には10.7%と、わずかながら拡大しており、悲観的な見方もあることもわかる。



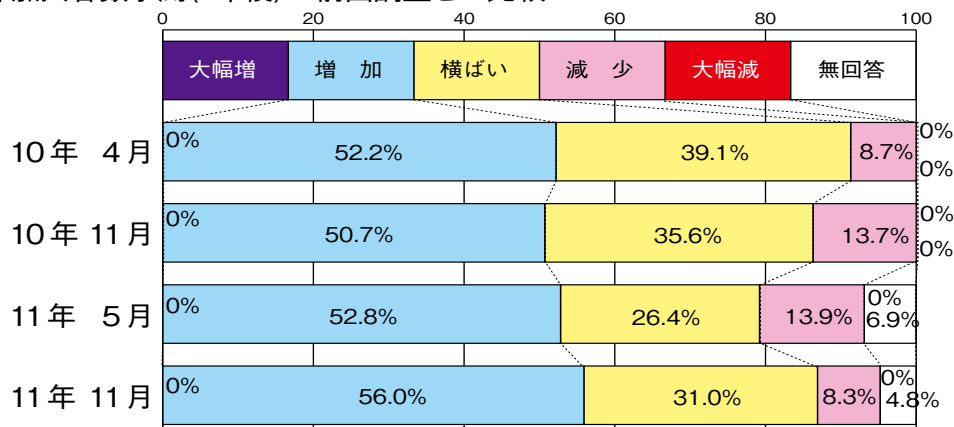
4. 多チャンネル放送全体についての予測推移

マーケット全体の加入者予測を前回調査と比べると、『現状』では、「増加傾向」「減少傾向」がいずれもわずかながら下げている一方で、「横ばい」が6.2ポイントの増加となった。『1年後』では、「増加傾向」「横ばい」がそれぞれ3.2ポイント、4.6ポイント伸ばしており、「減少傾向」は5.6ポイントの低下となった。『現状』については「横ばい」という意識がやや強くなってきている一方で、『1年後』にはやや楽観的な見方が広がっていることが分かる。ただ、『2年後』については前回調査とほぼ同様の結果となっていることから、先々についてはやや慎重な見方になっているものと思われる。

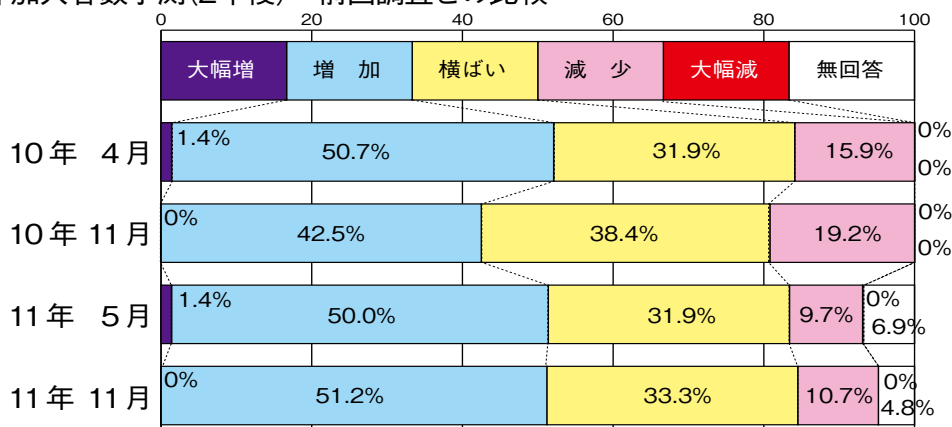
市場全体加入者数予測(現状)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較

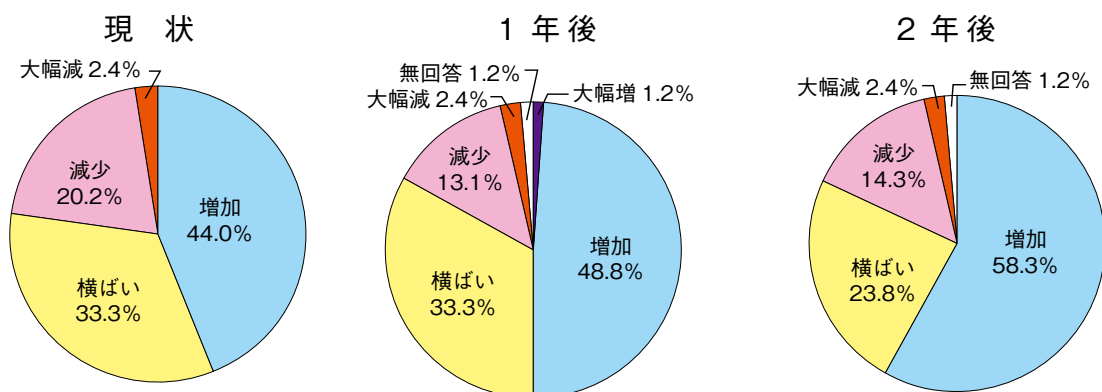


市場全体加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



5. 視聴料収入予測

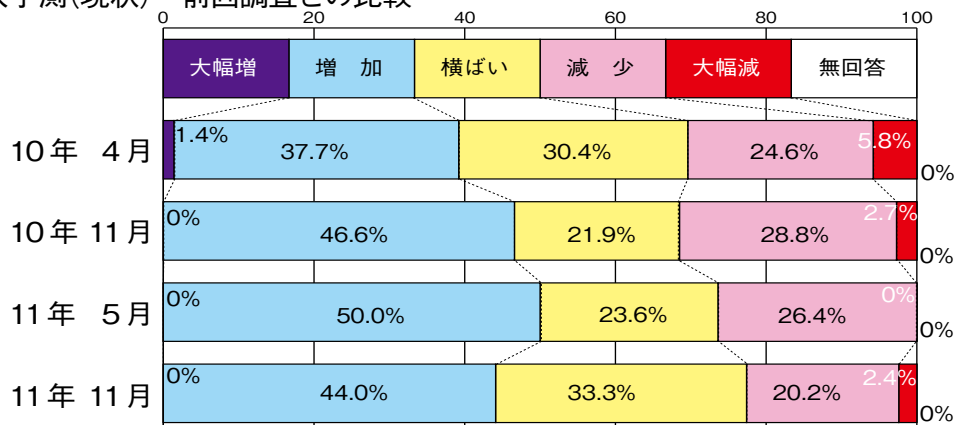
視聴料収入に関して、自社のチャンネルの加入者の状況と近い傾向であったものが若干収入に関しては低く見られてきている傾向にある。但し『2年後』には、現状に比べて収入的にも増加傾向と考えている事業者が58.3%と6割に達し現状と比べても14.3ポイント増えている。CATVではマイナス傾向だがDTHとIPTVでプラス傾向で過去の調査結果の内容とは少し変化が出てきている。



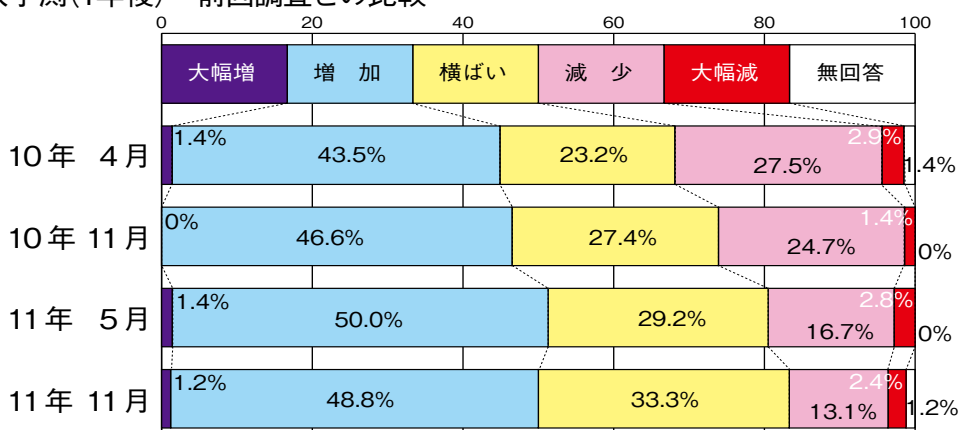
6. 自社チャンネル視聴料予測の推移

視聴料収入の推移をみると、前回調査との比較では『現状』では「増加傾向」「減少」が減り、「横ばい」が増えている。10年11月調査の『1年後』が今回調査の『現状』にあたるが、この1年前の「予測」に比べても、「横ばい」との回答が増えていることがわかる。今回調査の『1年後』でも、若干「横ばい」傾向が強まったが、反面『2年後』では前回調査よりも「増加」との回答が増え(58.3%)、将来に向けて収入増に期待する事業者が増えつつあることがわかる。

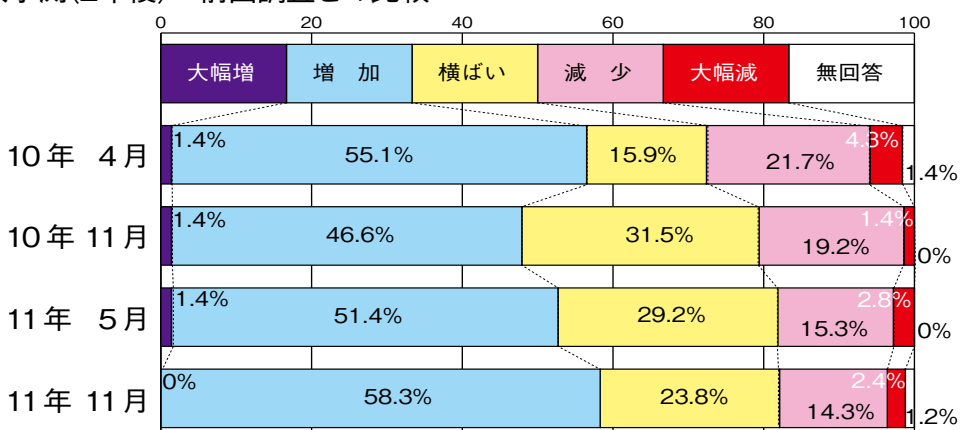
自社収入予測(現状)―前回調査との比較



自社収入予測(1年後)―前回調査との比較



自社収入予測(2年後)―前回調査との比較

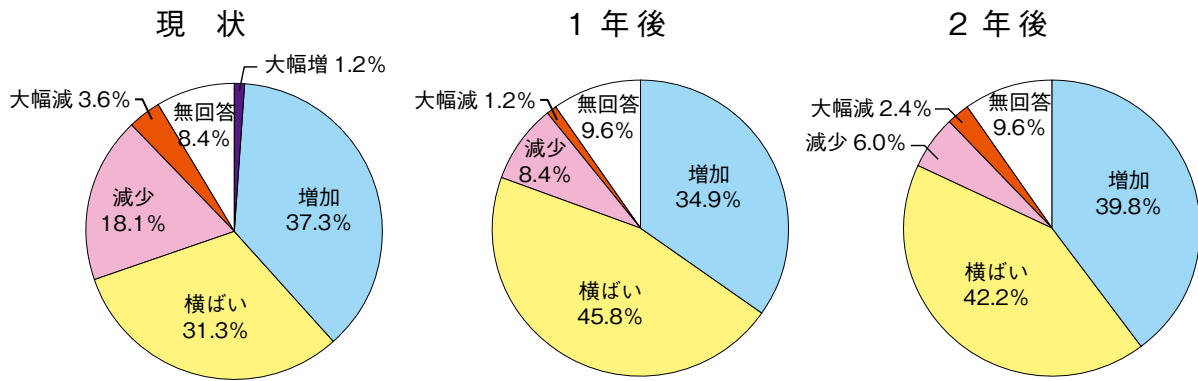


7. 広告収入の動向

自社チャンネルの広告収入の予測では、「増加」とみる回答が『現状』では37.3%と最も多く、次いで「横ばい」の31.3%となっているが、『1年後』では「増加」34.9%に対し、「横ばい」が45.8%、『2年後』では「増加」が39.8%に対し、「横ばい」が42.2%と逆転している。

一方、「減少」と見る回答も『現状』18.1%、『1年後』8.4%、『2年後』6.0%と下降しており、中期的には現状維持とみる傾向がうかがえる結果となった。

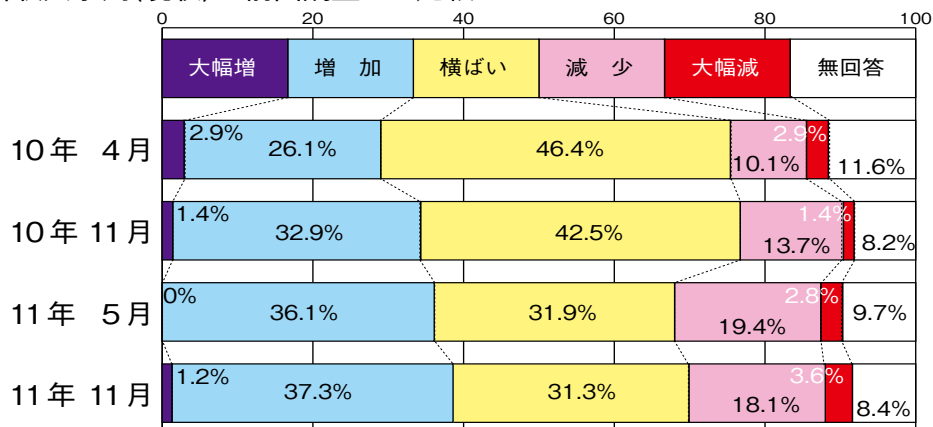
なお、無回答が『現状』で8.4%、『1年後』『2年後』で9.6%あり、チャンネルの中には広告を実施していないところもあることにも留意されたい。



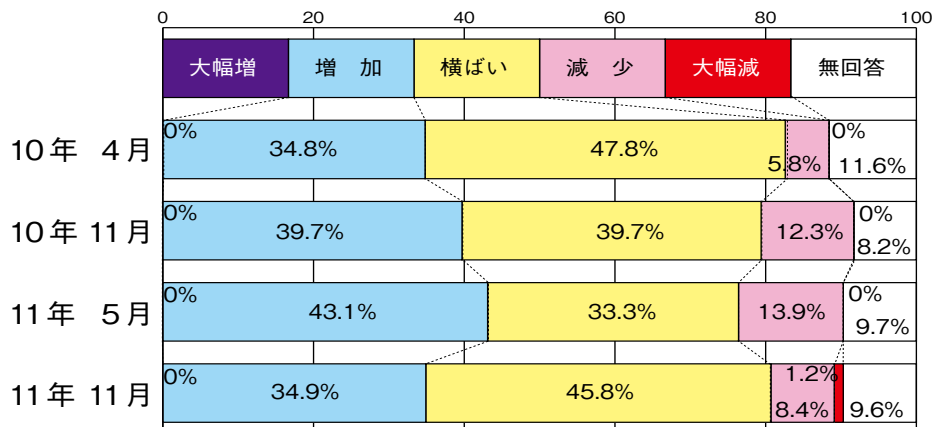
8. 広告収入予測の推移

前回調査と比べて、「増加」が『現状』では1.2ポイント上昇し、2010年4月から4回連続の上昇となった。ただし『1年後』は8.2ポイント、『2年後』は8.8ポイント前回より下降しており、「横ばい」と逆転する結果となった。「横ばい」と見る回答は、前回より『1年後』で12.5ポイント、『2年後』で10.3ポイントと大きく上昇している。「現状」では「増加」、将来的には「横ばい」とみる傾向が拡大している。

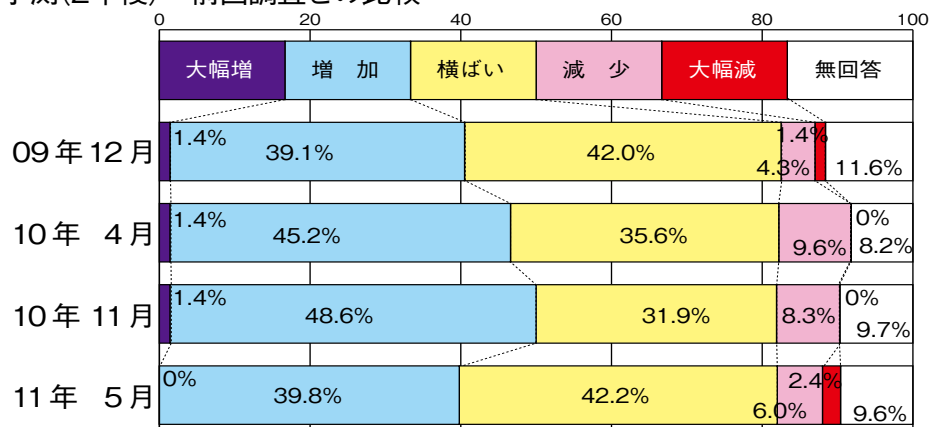
広告収入予測(現状)—前回調査との比較



広告収入予測(1年後)—前回調査との比較



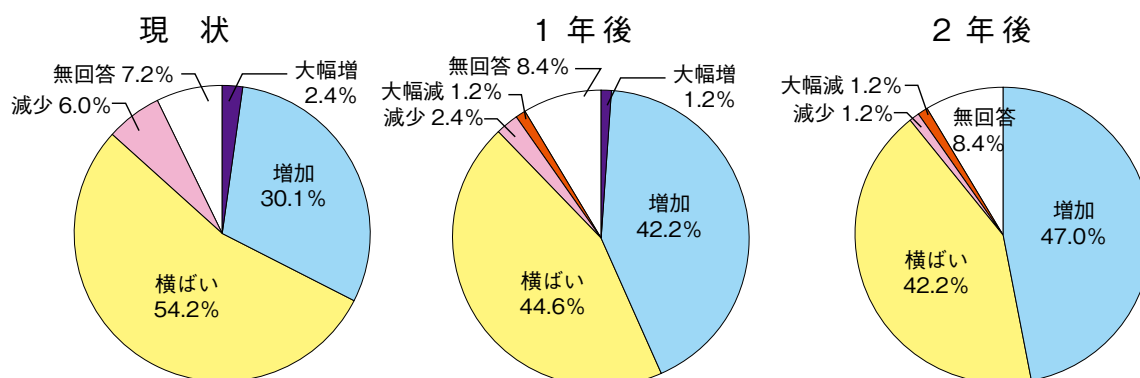
広告収入予測(2年後)―前回調査との比較



9. その他事業収入予測

自社チャンネルのその他事業収入の予測では、「横ばい」とみる回答が『現状』では54.2%と最も多く、次の「増加」30.1%を大きく引き離しているが、『1年後』では「横ばい」44.6%、「増加」42.2%と拮抗し、『2年後』では「横ばい」42.2%に対し「増加」47.0%と逆転しており、将来に関しては期待がうかがえる結果となった。

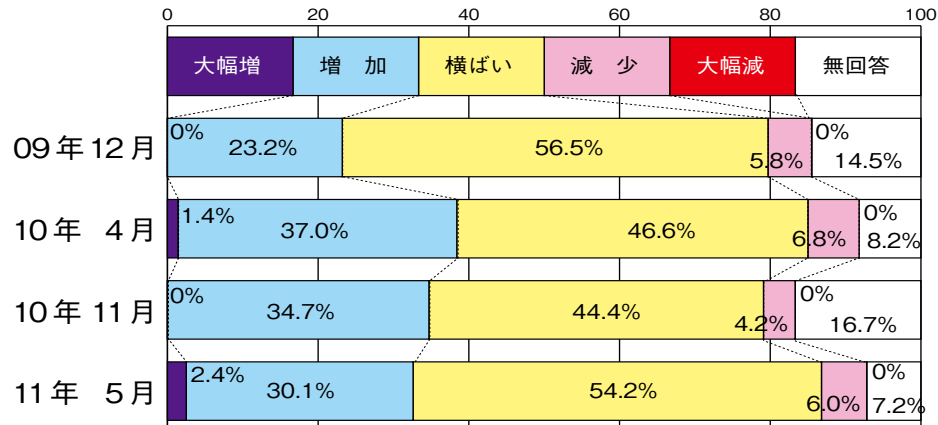
なお、本項目でも「無回答」が『現状』で7.2%、『1年後』『2年後』で8.4%あることにも留意されたい。



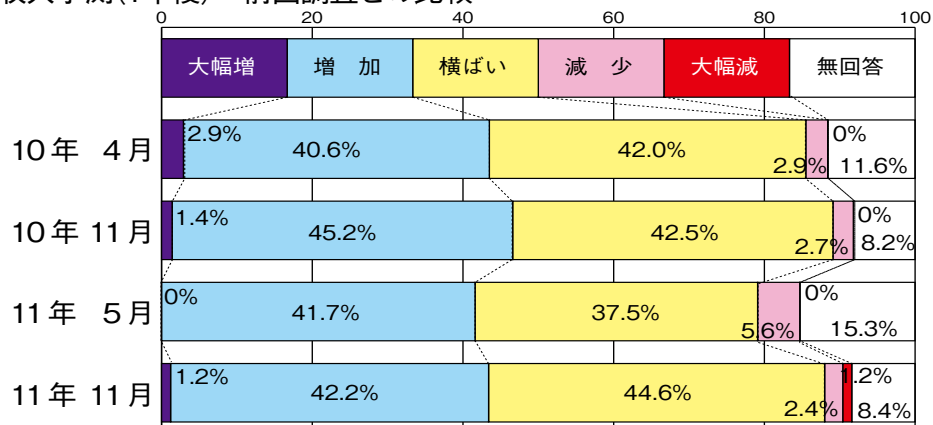
10. その他事業収入予測の推移

前回調査と比べて、「横ばい」が『現状』で9.8ポイント、『1年後』7.1ポイント、『2年後』7.5ポイントと大きく上昇している。一方、「増加」は『現状』で4.6ポイント下降しており2回連続での下降となった。『現状』では「横ばい」とみる傾向が拡大している。

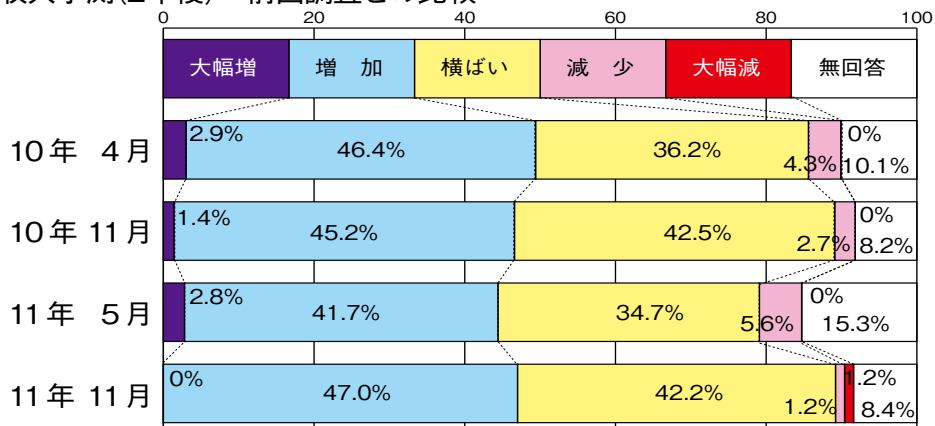
その他の収入予測(現状)―前回調査との比較



その他の収入予測(1年後)―前回調査との比較



その他の収入予測(2年後)―前回調査との比較

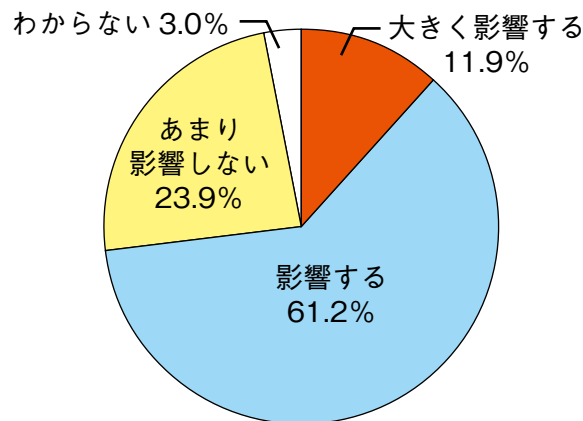


11. 新BSチャンネルについて

2011年10月から第一期が開始され、2012年3月から第二期が予定されているBSデジタル放送での多チャンネル放送の展開について、今回の事業者予測調査では、通常の質問の他に、多チャンネル放送の加入者について影響があるかどうかについて質問をした。

調査結果を見ると、「大きく影響する」、「影響する」が全体の約75%に上った。BSでの新しい展開が、多チャンネル放送に加入者の動向に影響を与えるという見方が支配的だが、一方25%弱が影響しないと回答している。なお事業者予測調査では多チャンネル放送全体の加入者についてプラットフォーム別にその動向を調査している。BS放送を含むDTHプラットフォームについて、今回実施した調査では、過去調査に比べて、最も楽観的な結果になった。この結果の要因のひとつとして、新BSチャンネルが考えられる。

新BSチャンネルの多チャンネル放送全体の加入者数に与える影響



参考 全体加入者数予測・DTHの推移(現状)―前回調査との比較

